

平成23年度 試験研究重点化事業評価表(H23新規:事前評価)

研究機関名	事業名	重点化項目	重点投資分野	実施期間	評価点	評価コメント
環境科学研究所	山梨県における竹林分布の実態と管理対策についての研究	本県特有の自然環境や森林資源等の保全	環境資源の保全・活用分野	H23～H24 (2年)	2.8	本県における竹林分布を過去と最近の衛星画像や航空写真等により比較し、そのうえで地形や隣接する植生等を要因として拡大方向をモデル化することを目的とする研究提案である。 しかし、先ず野外の竹林分布との正確な対応関係やその信憑性などの点が保証された上でなければ、この解析方法の有効性と信頼性が科学的に説得力を持たない。このため初年度に手法の検討を行い、その結果により次年度継続するかを判断することとする。 なお、データとその解析法を蓄積することにより、他分野の研究にも応用できる可能性も見込まれる。
	石油生産性微細藻 Botryococcus braunii の廃棄ウレタン燃料化への活用に関する研究	新産業、新技術、新製品及び新商品の開発	新産業創出に向けた新エネルギー分野	H23～H25 (3年)	2.4	本研究は、簡便なウレタンリサイクル手法の確立を目的とした研究である。しかし、この方法は原理的には有用に思われるものの、石油生産性微細藻の培養実績の不確かな点や、その応用面・実際面における生産規模など現実的問題等、解決すべき多くの問題が未解決な状況であり、現時点では机上の研究計画以上の成果は期待できず、重点研究として採択するには無理があると判断した。
森林総合研究所	人工造林地に進入したタケの駆除に関する実証試験	本県特有の自然環境や森林資源等の保全	環境資源の保全・活用分野	H23～H25 (3年)	3.5	放置竹林から進入し、スギ、ヒノキ造林木の成長を阻害しているタケの駆除を目的としている。既に紹介されている「伐採による手法」並びに「薬剤注入による手法」を、本県に適用できるか、更にこれらを組み合わせるなど新たな手法も含めて実証する研究内容で構築され、その上に低コストで効率的な研究計画であることから、成果が期待できる。
	夏季に収穫可能な特用林産物の栽培方法の確立	新産業、新技術、新製品及び新商品の開発	地域特産品の優位性創出分野	H23～H25 (3年)	3.3	現在、県内において、7～8月の夏季に収穫できるキノコ、山菜等の特用林産物は、極めて少ない状況にあるため、この時期に収穫可能な作物の栽培技術を確立することは意義がある。しかし、他県では既に実用化されているキノコもあり、これらと如何に差別化していくかについては、栽培条件やコスト面での工夫などの課題解決が必要である。また、全体計画も明確にしたうえで、研究を進めてほしい。
工業技術センター	はんだ接合部の非破壊検査に関する研究	新産業、新技術、新製品及び新商品の開発	超精密加工・製造技術分野	H23～H24 (2年)	3.6	本研究で提案された方法によると、はんだ接合部の劣化初期に現れるクラックを、非破壊で短時間に検出することができる。高周波による非破壊での信頼性評価は新規性があり、産業界にとって重要である。この研究により、はんだの劣化状況が早期発見できれば、はんだ素材の改善対策に繋がり、県内機械電子業界への普及が期待できる。このことから、研究の必要性評価は高い。しかし、多数のはんだ接合部の劣化を一括して早期発見できるのか疑問が残り、業界に広く普及するためにはこの点も含めて解決していくことが重要と考える。
	汎用鉄鋼材料の小ロット金型への適用に関する研究					H23～H24 (2年)
	山梨県における欧州系ブドウ品種の果実特性とワイン醸造技術に関する研究			地域特産品の優位性創出分野	H23～H25 (3年)	2.9

研究機関名	事業名	重点化項目	重点投資分野	実施期間	評価点	評価コメント
富士工業技術センター	プラスチック射出成形におけるガス成分付着による外観不良対策の研究	新産業、新技術、新製品及び新商品の開発	超精密加工・製造技術分野	H23～H24 (2年)	3.3	<p>ゴムと樹脂の両方の性質をもつ熱可塑性エラストマーは、射出成型時にガスが製品表面に付着し、外観不良となることが多い。本研究では、ガス付着成分と樹脂流動の状況を解明し、その対策を提示することで、県内の射出成形業界への普及が期待できる。このため研究の必要性は高い。</p> <p>しかし、目的達成の可能性がやや低いとの評価であるので、この点を高めるためには、熱可塑性エラストマーの配合割合や、ガス排出用ベント等の構造及び機能性向上が重要な研究要素であると考えられる。</p>
	バナジウム媒染による繊維の濃黒色化に関する研究		地域特産品の優位性創出分野	H23～H24 (2年)	3.8	<p>本研究は、研究予算の妥当性と期待される研究成果で高い評価となった。これまで、先染め繊維としては存在しない濃黒に染色する技術を開発することで、現在展開中の地域ブランド事業や温暖化対策製品(例えば日傘等)への応用が可能となり、地域中小企業の振興に資する着実な研究が期待できる。</p>
総合農業技術センター	鉢花・花壇苗類の生産阻害要因の究明と対策技術	新産業、新技術、新製品及び新商品の開発	地域特産品の優位性創出分野	H23～H25 (3年)	3.4	<p>本研究は、花き生産者にとっては緊急かつ重要な問題である。得られる成果は行政施策および普及・実用性への貢献度も高い。しかし、現地実態調査と原因究明等の研究年次計画が整理されておらず、効率的かつ効果的な研究推進を図るためには研究展開を詳細に詰め、実施する必要がある。成果は、緊急を要するため随時公表する必要がある。</p>
果樹試験場	ブドウの害虫クビアカスカシバの防除対策	新産業、新技術、新製品及び新商品の開発	地域特産品の優位性創出分野	H23～H25 (3年)	3.6	<p>本虫の効率的な防除法を確立するためには、発生生態の解明が必須となる。人工飼育法の確立は効率的に生態解明を図るうえからも重要であり、これに基づく防除法の確立は研究展開として妥当である。被害の重要性とともに生態解明などには新規性もみられ、得られる成果は普及・実用性が期待できる。</p>